

## 学校課題研究授業① 7月7日（平成26年度）

### 学校課題

# 自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

～一人一人の力を高め、思考を広げ表現できるようにする取組～

本校では、上記のような学校課題を設定しています。伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、個に応じた適切な支援にも努め、言語活動を通して思考力・表現力の向上をめざして研究を進めています。

本年度は、話したり書いたりして、自分の言葉で伝え合える力を伸ばしていくために、書くことによって思考力を高めていく手段・方法も研究していきたいと考えています。また、思考力・表現力を豊かにしていくために、言語力の基礎となる語彙力を伸ばせるような指導の工夫や日常活動に生かせる方法についても研究していきたいと思えます。そして、育てたい児童の姿を明確にし、育てたい力の具体策をさらに発展させ、個の特性にも配慮しながら取り組んでいくことで、副題のように一人一人の力を着実に伸ばしていきたいと思えます。

今回は、「黄色いバケツ」というお話を扱った2年生の国語の授業です。発展部分で、関連する図書を読んで登場人物の紹介文を書き、読み合うという言語活動を行うための前段階のところの授業でした。

2年生は、日頃から読書活動に親しんだり、国語の時間には、いろいろな音読（役割読み、動作化など）や書く活動を積み重ねてきているので、お話を読むことに興味をもち、感想を書くことにも意欲的に取り組むことができました。また、小グループで話し合う活動も、何度も重ねてきているので、自信をもって自分の考えとその理由を友だちに伝えることができました。

一方で、小グループでの話し合いは、お互いに伝えるだけで終わらず、2年生なりに、意見や質問を交流させ、考えを深め合えるようにすることが課題となりました。その手だてとしては、今回の授業の視点「①毎時間好きな文を書き抜いたり、読み取ったことを書いたりしてきたワークシートの活用」をさらに工夫すること、「②小グループでの話し合い」で型やスキルの訓練を重ねることが考えられます。

今回の指導者である下野市学校教育課指導主事の高山靖子先生からは、特に、次の2点についてご指導いただきました。

○先行事例をモデルに、明確で、筋の通った「単元を貫く言語活動」を創造していくことが必要である。子どもが自らやりたくなる言語活動かという視点をもって、指導者も実際に自分でやってみることも大事である。

○指導案の作成では、「単元の評価規準」が「指導事項」とずれがないように、「指導事項×言語活動」でより具体的に設定されるように留意するとよい。

